明日へ～子供達の未来のために

1. 日本の現状と今後
2. 環境の変化と教育のあり方
3. 企業が求める人材・能力とは？
4. 『想像力・発想・考える力』の育成
5. 何の為に勉強するのか？社会に出るとは？
6. 考える・・・という事
7. 本当の頭の使い方
8. 子供達の未来のために何が出来るのか
   何をしなければならないのか～各種講座のご案内

(株)オフィスナガトモ
太田泰晴

日本の現状と今後

2011年3月11日、突然、未曽有の大震災が東北を襲いました。そして、津波、原発事故と信じられないような映像が連日連夜報道されていました。あれから3年が過ぎましたが、その被害の甚大さと原発事故の放射能汚染により未だ被災者の方々に大きな苦しみと不安を強いています。

当時、日本全体への影響も深刻で国内では企業活動の低迷、円高、復興増税等々、そして世界でもギリシャから始まったユーロ信用不安、中国不動産バブルの崩壊危機、アメリカ経済の低迷等々、予断を許さない状況が続いていました。日本経済は今、ようやく、安倍政権の政策により円安シフトし、企業業績や雇用の回復が報道されています。しかし一方では、貿易赤字、物価上昇、消費増税、TPP等、個人にとっては、依然として厳しい状況が続いているように感じます。

ご存知のように日本が経済成長してこれたのは原材料を輸入し、製品を輸出するという加工貿易で支えてきたものです。そこには、行き届いた教育と勤勉さ、良い暮らしがしたいという欲求が有ったからこそ、それが原動力として働き、今日の高い技術力と経済力を手にしたのです。

ところが、当時の**円高**の問題は深刻で利益の大半が消失し、世界的に物が売れづらい状況となっていました。そうなると企業は存続を掛けて海外生産の比率を増やし、結果、国内の空洞化は益々加速していくことになります。また、外資によって日本企業が買収されていくケースも少なくないようです。そうなると、正社員の道は益々険しく、就職できない有っても契約社員や派遣労働です。結果、**一人食べていくのがやっと**で結婚なんて考えられないという話も出てくる訳です。輸出産業が駄目なら内需拡大？と行きたいところですが若年層の失業率や低所得問題を考えるとあまり期待できない話です。少子高齢化対策、社会保障と税の一体改革という政策に明るい未来が見えてこないのは私だけでしょうか？

生まれ育った時代、それは個人では選択できません。**運・不運**と言っても良いと思います。戦争体験者、戦後の焼け野原時代、復興期、高度成長時代、バブル時代、その時代時代において社会に出る準備をし、実際、社会に出た子供たちはそれぞれどう感じていたのでしょうか？私事で恐縮ですが裕福な家庭ではありませんでしたが、一億総中流と言われた時代で、少しずつ、電化製品が揃い便利で豊かな生活が始まった時代だったと思います。高卒、大卒問わず、就職先が無いという話はきいたことがありませんでした。人並みの仕事が出来、人並みの生活が出来たのです。ひょっとすると、日本の一番良い時代に生きてきた事になるのかも知れません。

これから訪れる、本当のグローバル社会は、賢い者、努力した者にはチャンスとなり、そうでない者には相当厳しい時代になると思います。ユニクロの新卒採用の3分の2が外国人という戦略が示すもの、それは、就職戦線において、世界中のライバルと戦っていかなければならないと言うことです。**誰でも出来る**仕事は低賃金でキツイ、でもこれは彼にしか出来ないという能力を持てば、未来は約束されます。

環境の変化と教育のあり方

製造業においては、如何に生産量を増やすか、不良品を無くすか、コスト下げるか、日々難問との戦いの連続でありスピードと結果を求められます。明確な正解は存在しません。前例もありません。でも、とにかく結果を出さないと会社は利益が上がらないのです。これは全ての業種でも全く同じで、昨日より今日、今日より明日は進歩し、効率を上げ、利益を伸ばし続けることが要求されるのです。勿論、弊害もあります。アウトソーシングと言われた、社内業務の内、単純で簡単な業務を外注して人件費やコストを下げようという動きです。これが発展して請負、派遣といった形態が主流 となったわけです。非正規雇用、企業にとっては、便利で有りがたいシステムです。必要な時に必要な工数を安価で得られ、不要になれば契約を解除できるわけですから。当初は、働く側にとっても自由度の高い、新しい働き方と歓迎する声もありましたが、不況時に真っ先にしわ寄せがくる弱い立場の層となってしまい**“派遣切り”**という社会問題となったのもつい先日のことです。

このシステムは、企業にとって、これなくしては利益が出ないと言って良いほどコスト削減とリスク分散に貢献しており今後も続くと考えられます。繰り返しになってしまいますが、正規・非正規雇用という形態は、人材確保と働き方という両面から見て、便利さと危険性があることを知っておく必要があります。**経済的二極化**、残念ながらその距離が今後縮まるような要素はいまのところ見当たりません。厳しい時代になったと思います。

一方、世界の学力調査において日本が順位を落とし続けていることを懸念して“ゆとり教育”を廃止し、またもや詰め込み教育？が再開されました。頭の中のハードディスクにどれだけの情報を記憶し、正確に引き出せるか？この情報量の多さで優秀かそうでないかを線引きする**偏差値での“ものさし”** がどれだけナンセンスかを誰しもが経験しているにもかかわらず教育現場は何故、改善されないんでしょうか？

現場ではどうしようもない、出来ないと言う声も聞いたことがあります。指導要領？マニュアル？に則した膨大な量を限られた授業時間内にこなすので手一杯であり、また本来なら家庭で作られるはずの躾けの領域まで学校で面倒見なければならないケースも増えてきていると聞きました。

知識・情報はこの情報化時代、ネット社会においては、簡単に入手できるものであり、その付加価値は下がっているにもかかわらず情報の多さが頭の良さという方程式が未だ通用している事が不思議で　仕方ありません。現実、高卒の有能な任せられる人達とも大勢出会いました。反面、**超有名大学卒の“使えない人”**達とも少なからず一緒に仕事をさせていただきました。

社会に出る、自立するとはどういうことか？そもそも、社会に出て自立する為に小学校、中学校、高校、大学と教育を受けてきたはずなのに、会社に入った瞬間、持ってる情報、能力と、要求されるものが大きく違った経験を多くの方がお持ちだと思います。パソコンや語学力は即戦力だとは思いますが、社会に出るまでの膨大な時間、もっとやっておくべき、知っておくべきことが山ほどあるように思います。

この競争社会、学校だけでは不安だから塾に行かせてます。通信教育も受けさせています。これ以上、何をしろと言うんですか？とお叱りを受けそうですが、親だから教えられる、親にしか教えられない、**生きていく為に必要な能力**とは何か？を子供たちに伝えるべきだと考えております。そうです、国の教育システムや受験対策の塾、通信教育まかせでは前述の本当のグローバル化の波には勝てないのです。

今こそ、教育の原点？教育とは何か？教育の目的、ゴールを考え直す時期に来ているのではと考えます。

（株）オフィスナガトモ

企業が求める人材・能力とは？

1982年から2003年まで大手半導体メーカーにおいてエンジニアとして技術開発や量産支援、技術者育成等々に携わってきました。その後、独立し**技術コンサルタント**として製造業の技術課題解決や人材育成のお手伝いをさせて頂いてきました。製造業の未来を左右するものそれは技術力です。では技術力とは？その答えは、人です。任せられる、結果を出せるひとが何人居るか？なのです。それでは、任せられる、結果を出せる人とは？優秀な有名大学を出た人？偏差値の高い人？専門的な知識量？勿論、専門的な知識・情報なしには仕事にはなりませんが、最も大切なのは想像力・発想・考える力なのです。同じ発想、考え方の人間が5人集まろうが10人集まろうが、その結論はあまり期待できるものとは言えないでしょう。違う意見や見方が有るから議論が白熱し、全く新しいアイデアが生まれるのです。

ゲーム世代、マニュアル世代とでも呼ぶのでしょうか？素直で、言われたことは一応無難にこなす。でも、もう一歩踏み込んで、興味やら疑問やら不満でも良いから、感じて表現・発信して欲しいと思うのです。一人だけ他とは違う考えや意見を持つこと、発信することを恐れているのでしょうか？**意見の対立**を避けて通ろうとしているのでしょうか？出る杭は打たれ続け社会に出るころには、既に集団の中の一人になってしまっているのでしょうか？

企業に於いて個人の能力を、問題抽出力、問題解決力、洞察力、交渉力、プレゼン能力、組織統率力、コミュニケーション能力、企画力、責任感、等々で評価をするケースが有ります。しかし、仕事で結果を出す為に最大の武器になるのは、その仕事に対して**本気か否か**という単純なことなのです。本気とは、好きである。興味がある。楽しい。時間を忘れて没頭できるということなのです。1日の大半を過ごす職場や仕事が苦痛ででしかなかったら・・・・。勿論、個人だけの問題ではなく企業側のシステムや風土の問題も多々有りますが、やる気、モチベーションを如何に維持・向上できるかも個人の能力だと考えます。そしてこの能力の原点も『想像力・発想・考える力』なのです。
この能力は、仕事で結果を出す為だけではなく、各種ストレスへの対処、良い人間関係、大げさかも知れませんが、充実した人生を送る為に欠かせない能力だと思います。

この『想像力・発想・考える力』をどう鍛えるのか？伸ばすのか？・・・・人材育成という立場から、あるいは**親という立場**から考えてきました。

（株）オフィスナガトモ

『想像力・発想・考える力』の育成

想像力・発想・考える力は、**幼児期の遊び**からその基礎が形成されると言われています。自然とのふれあい、泥遊び水遊び、虫、植物、動物等々と体の感覚全部を使って触れ合うことから育つものなのです。親子で一緒に遊ぶ時間をどれだけ確保できたか？が将来、どれだけ親子の会話が出来たかに比例します。ときには出来るだけ干渉せず、やりたいようにさせておき、してはいけないことはしっかり叱る、うまくいったら一緒に喜び、褒める。この**褒める**というのも非常に重要な要素で、核家族と、おじいちゃん、おばあちゃんと同居をしている家庭では雲泥の差があるようです。おじいちゃん、おばあちゃんにとって孫はとにかく可愛くてしょうがない、どんな些細なことでも褒め、喜んでくれます。人は、社会に出ても同じなのですが褒められることにより、もっと頑張ろうという気持ちになります。怒られていやいややる勉強と褒められて次も良い点数を取ってやろうとする姿勢、結果が違うのは当たり前です。

小学校に上がる前くらいのこどもに『5人の子供たちにあめ玉を3個づつ配りました。全部で何個ですか？』というと指折り数えながら、あしの指までつかって必死に数えて答えようとします。次に『二人は1個食べました、残りの3人は2つ食べました。残りのあめ玉の数は？』と続けるのです。この子にとっては楽しいクイズ、ゲームなのです。でも学校に入ってからのこの手の問題は算数であり勉強なのです。楽しくないのです。不思議です。

勉強ではなく**親子の遊び・ゲーム**としてどれだけの時間を費やしたか？簡単ではありませんが、親にとっても非常に重要で楽しい時間でもあるはずです。間違い探しゲーム、部屋の中のある一角、あるいは、テーブルの上を対象に現状を記憶させ、こどもたちを一旦別の部屋に行かせます。そして、その一角、テーブルの上のものを場所を少し変えたり、雑誌を裏返したり、あるいは、TVのチャンネルをかえたり音量を変えたり、微妙な変更をして、子供たちを呼び戻し、変わったところを当てさせるゲームです。こども達に問題を出させるのも大いに結構です。親の話に興味を持ち、いろんな質問をしてくる、今日、保育園であったいろんな話をしてくれるそんな家庭は安心です。

（株）オフィスナガトモ

突然、親と話をしなくなる、部屋に閉じこもることもありません。日常の親子の時間の使い方、接し方の問題だと思います。苦痛ではないはずです。手をつないで歩いてくれるのも、スキンシップが出来るのも、あと何年でしょうか？今、子育てを楽しまないで、家族の時間を満喫しないでどうするんですか？絶対後悔することになると断言します。

次に、遅くともでも小学校5年生から中学校1年生くらいを対象に伝えておくべき重要な要素があります。一つはお金の話です。 一般論でも構いません。リアルな自分の現状でも構いません。最低でも月、幾らのお金が必要か年間幾ら稼ぐ必要があるのか？どんな仕事でどれくらい貰えるのか？その仕事とは具体的にどんなことをするのか？どれ位ハードな仕事なのか？少し乱暴で早すぎるかもしれませんが、生きて行くためには働いてお金を稼ぐ必要があること、より効率の良い仕事に付くためには、より厳しい競争があることを伝える必要があるのです。少なくとも第一希望の大学に入る為に勉強しているのではない事、どんな職業に付こうが、勉強はし続けることになることを教えるべきなのです。このことは、少しでも早く子供たちが自覚し本気で、真剣に自分の未来を考え始める為に必要と考えます。

他にもこの時期でなければ遅すぎる、伝えておくべきことが沢山有ります。何のために勉強するのか？社会に出るとは？どんな能力が求められるのか？そして個性や他者を尊重する大切さ、感謝の気持ち、思いやりの心、自分を好きになる事、自分に自信を持つ事、いろんな事にチャレンジする事、きりが無いくらいです。そしてこの全ての原点が、『想像力・発想・考える力』なのです。

何の為に勉強するのか？社会に出るとは？

社会に出る・自立するとは、『**経済活動**を始める』ことと言われています。つまり、何かをしてお金を稼ぎ、それで生活をしていくと言うことです。ただ、朝から晩まで、夜中まで必死で働いて、食べるのがやっとという生活は誰も望まないでしょう。なるべく効率の良い（時給の高い）経済活動が出来るように勉強しているのです。『貧乏よりお金持ちがいいでしょう。だから勉強するのよ』というアメリカと『しっかり勉強しないと良い大学に入れないわよ』という日本・・・・。でも良い大学に入れば良い人生が約束されるのでしょうか？企業も同じです。大手企業に入社出来たとしても未来が約束された訳では有りません。終身雇用や年功序列は過去の話なのです。

企業がどうやって有能な人材を確保していくか？そもそも有能かそうでないかを何を持って判断しているのか？最も確実な方法がヘッドハンティングです。アメリカでは転職回数がその人の能力の高さを表す指数とまで言われるほどで、他社から声が掛からないようでは一流ではないと言われているようです。新卒採用に於いては残念ながら今でも尚多くの企業が知識・情報の多さをペーパー試験で判断しています。しかし、一部、学歴の情報を伏せたまま、発想力、閃きを試す入社試験で採用を判断する企業や一人に一台PCを提供しネット環境をフルに活用して問題を解くといった選考方法も出てきています。・・・・・と言いながらもまだまだ**学歴偏重**の流れが主流であり、“高い偏差値” と “考える力”この二つをどう鍛えていくか？が真のグローバル化社会へ対応する為の絶対条件と言えるでしょう。

ここまで、厳しい現実、楽観視できない未来について述べてきました。**“普通に生きていく”**がそう簡単に手に入らない時代と表現すればいいのでしょうか。前述したように、時代時代の運・不運と割り切って受け入れ、順応していくしかありません。

ここから、“考える力” とはどういうことか？少しずつ解説していきます。

（株）オフィスナガトモ

考える・・・という事

社会に出る・自立するとは、『経済活動を始める』こと、そしてなるべく効率の良い経済活動をする為に高学歴が必要で、その為に勉強していますと述べてきました。では、効率の良い経済活動が出来るようになることが目的、ゴールでしょうか？いいえ違います。お金は目的ではなく手段なのです。幸せな人生を送る為の。人は誰しも自分の意思では生まれてきません。でも生きていく以上、幸せな人生を目指します。勉強しなさい!!というのは子供の将来の為を思っての、幸せになって欲しいが為の親の愛情だと思います。そうなんです。何の為に勉強するのか？という問いに対して最も的確な答えとは【**幸せな良い人生を手に入れる為**】ではないかと考えています。では、幸せな人生を手に入れるためには、何をしたら良いのでしょうか？この最も大切で難しい問題について話を進めて行きます。

幸せになるために勉強している？話が飛躍しすぎている、現実逃避だ、この世はお金が全てだ、とにかく希望の大学に受かってさえくれれば、という反応もあるかも知れません。それでは、もし全く勉強しなかったらどんな未来が待っているのでしょうか？（ここでの勉強とは知識・情報・偏差値のみではなく考える力を身につけることを指しています。）世の中のシステムが、良し悪しは別にして、学歴や資格でまずは差別化をしてしまいます。ナンセンスな仕組みだと感じてますが、このルールの下で競い合うしかないのです。勿論、学歴や資格なしで成功している人も沢山いますが、険しい道のりだったと推測します。学歴、偏差値による一時選別の後、社会に出る、仕事で結果を出す時に必要になるのが、閃き、アイデア、問題解決能力なのです。そしてそのベースとなるのが【考える力】なのです。

この文章を読みながら、私もそう思う、単なる理想論だろう、全然そうは思わない・・・・この他者の意見や事実に対して興味を持ったり、理解したり、反論したりすることが重要なのです。自分なりの見解・意見を持つこと、それを発信すること、そして行動することが重要であり、考えないことには何も始まらないのです。簡単なことなのですが、答えが出るまで考え続ける、深く考えることが苦手になってきているように感じます。**ゲーム世代**、マニュアル化の弊害なのでしょうか。言われたことは一応無難にこなすが、それ以上のことはしない。（先が読めないのか？遠慮なのか？出来ないのか？面倒くさいのか？何も考えていないのか？）いずれにせよ、考える力を少しでも早く、身につけさせないと短時間で延ばせるものでは有りません。大人になってからでは既成概念や思い込みが強く、柔軟な発想が出来辛いのは、皆さん経験されていると思います。今、自分の中に『何をどうしたい』という思いはありますか？ただ、言われことを淡々と嫌々こなしているだけではないですよね？

『ものの見方・考え方』という講義を企業の技術者育成の中で実施します。種々の技術的問題に対して、例えば不良品の発生に関して原因を究明して対策を打ち、その効果を確認する。従来はこの一連の作業が問題解決でした。つまり、現状復帰で良かったのです。でもこの手の対策は必ずと言って良いほど再発します。何が問題で、どういう状態が正常かを徹底して議論します。詳細は割愛しますが、いつ不良品が出てもおかしくないギリギリの製造条件で生産していた事がこの議論から浮かび上がってきます。多少の製造条件のずれやばらつきがあっても不良にならない最適な条件が見つかるのです。

この『ものの見方・考え方』という講義を通して、人とは違う目線が持てること、どういうことが起こってこの不良が発生したのだろうという想像力が長けていることが最大の武器になるという事を学びます。更には、事故の再発防止ではダメで、事故の可能性、リスクを分析し、未然に防ぐ事が最終ゴールとなります。

言葉では説明しにくいのですが、究極のプラス思考、多角的視野能力、第三者目線、自分との対話能力とでも表現すれば良いのでしょうか。

ひょっとしたら難しい微積分の問題を解く能力より、子供のころの間違い探しの能力や、推理小説の犯人を当てる能力の方が実生活上役に立つのかも知れません。いや多分そうだと思います。

（株）オフィスナガトモ

本当の頭の使い方

お金があれば幸せになれるか？いいえ違います。**物質的な豊かさ**だけでは、幸せにはなれないのです。では、幸せとは？これも100人いれば100通りの定義があるといっていいでしょう。自分が“今”をどう感じているか？であって、他人が評価したり点数をつけるものではないのです。今、幸せですか？と言う問いに何点つけますか？夫の収入がもう少し高ければ･･･子供の成績がもう少し良ければ･･･会社の上司があいつじゃなければ･･･そうなんです。人は、特に日本人は幸せではない理由･原因をほじくり出し、自ら点数を下げていく考え方が多いとされています。でもいつか自分にも運が向いてきて幸せになれる、そうなるよう、今、我慢して頑張ろう･･･という考え方をしがちなのです。つまり、満足感を先送りして**常に満たされない、**幸せではない時間を送り続けると言うことなのです。

例えが悪いかもしれませんが･･･日常の風景、家族4人で夕食、こども二人が何か冗談を言いながらゲラゲラ笑っている、テーブルの下では足でちょっかい出して遊んでる、何回注意しても隙を見ては続けている、その内、おつゆをこぼしてしまい、ついにお母さんが激怒する。あるいは、こども二人が仲良くテレビゲームで遊んでる。とても楽しそうに盛り上がっている。でも、もう2時間近く止める気配が無い、『もう何時だと思ってんの!!』と鬼の形相のお母さんから即刻中止命令が下される。ここで、もしこどもの一人が不治の病に冒されていて余命3ヶ月だとしたら、先ほどの風景は、家族4人がいつものように夕飯を囲み笑顔が耐えない、兄弟二人が時間を忘れて夢中で遊んでる、その仲の良い兄弟をぼんやり眺めながらこのまま時間が止まればと思うくらい**幸せな時間**なのです。

最近、視力が落ちてきたような気がしたので眼科で診察を受けたところ、残念ですが、後、半年で完全に光を失います。点字の勉強をスタートしてくださいと言われたら･･･、見えることが当たり前で、気にも留めなかった日常のもう何百回、何千回と通った通勤道の風景が、どれだけ違って、色鮮やかに見えてくるんだろうと思います。

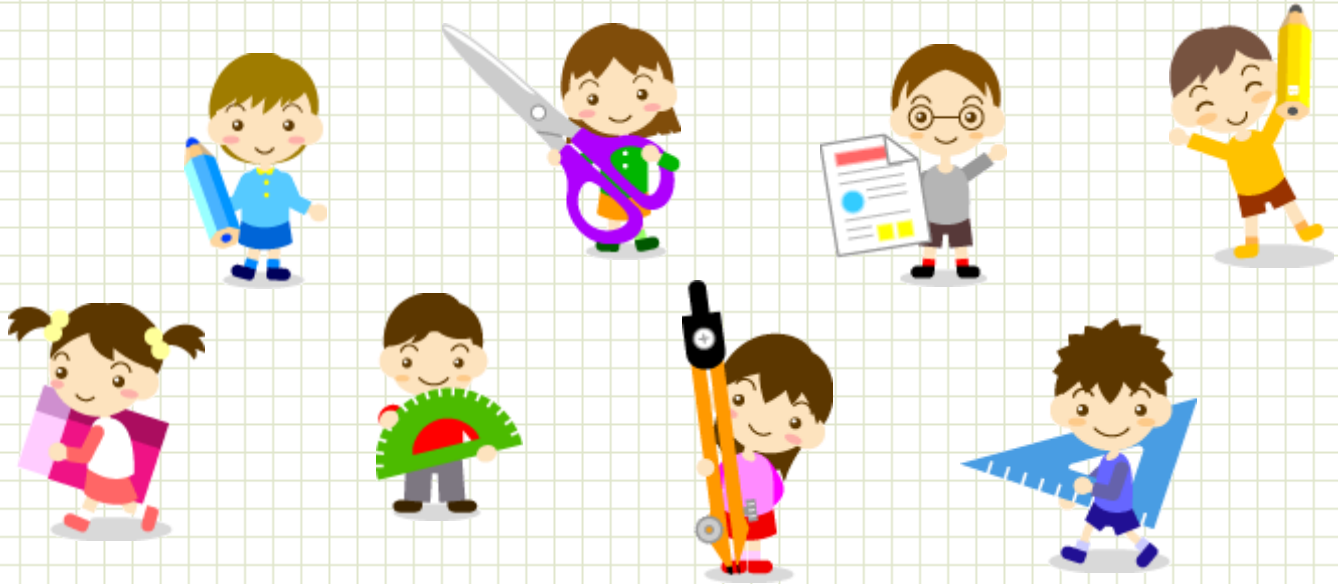
（株）オフィスナガトモ

入院を3ヶ月もするとあれだけ行きたくなかった会社に行きたい、仕事がしたいと思うはずです。そうです、人は無くさないと本当の価値が分からないものなのです。

何も無い**普通の日常こそが**この上ない最高の幸せの瞬間かも知れません。要は、そう思う自分が居るか、それに気付かない自分が居るかの違いなのです。

もうお分かりでしょう。『ものの見方・考え方』を変える、柔軟性を持つことが最大の武器になるのです。**本当の頭の使い方**、それが想像力、発想、考えるということなんです。先ほどの例のように、今に充実感や幸福感を持てるようになれば、必ずいい結果に繋がります。いやいやする仕事と遣り甲斐や興味を持ってやる仕事、どちらの結果が期待できるでしょうか。

どうですか？**ものの見方・考え方を変えないと見えてこない大切なものが沢山あるのです。**



（株）オフィスナガトモ

子供達の未来のために何が出来るのか
何をしなければならないのか

◆ 子育て意識改革講座（4～10歳の親御さん対象）

今後の学習能力、考える力等々いわゆる『生きる力』をどれだけものに出来るかを大きく左右する最も重要な時期だと考えます。親子で楽しく遊びながら考える力をつける幾つかのテクニックを紹介しながら、親にしか出来ない本当の教育を一緒に考えていきます。

◆ 発想の天才になろう!!（11～13歳）

何の為に勉強するのか？生きる力ってどういう事？を理解すれば、何事にも本気で取り組み始めます。そうです。目的・ゴールを与えるのです。社会に出るとは何か？を伝えるのです。そして最も重要な考える力を幾つかのゲームで体感していきます。未来を変える重要な分岐点に今、来ています。

◆ 問題解決の基礎講座（中1～大学生）

自分の未来を自分の事として真剣に悩み、考え始めなければいけない時期です。親、先生にお任せだった自分の未来について、そして自分について整理していきます。ここで“本気”のスイッチを入れられるか否かで未来が大きく変わります。幾つかの演習問題を通し『ものの見方・考え方』をしっかり理解して貰います。自立への最終準備段階です。

（株）オフィスナガトモ

http://office-nagatomo.co.jp/

株式会社オフィスナガトモ

企画室　太田　泰晴

info@office-nagatomo.co.jp

〒889-1406　宮崎県児湯郡新富町大字新田5744番地1

TEL:0983-33-1105　FAX:0983-33-0393